

泊発電所の再稼働に向けた取り組み状況をお知らせいたします

2024年3月
北海道電力株式会社

【新規規制基準適合性審査への対応状況】

- ✓安全確保を大前提とした泊発電所の早期再稼働に向け、原子力規制委員会の審査に真摯に対応しています。
- ✓当社は、2024年2月の審査会合で、防潮堤の設計方針（構造成立性評価結果等）について説明し基本構造を確定したことから、同年3月28日より新設防潮堤設置工事を開始します。工事の完了時期は未定ですが、3年程度での完成を目標とし、さらに少しでも早い完成を目指して取り組んでいきます。
- ✓引き続き、基準津波の策定等、残る審査項目の基準適合性を説明してまいります。

【今後の対応】

- ✓電気料金値下げによるお客さまのご負担軽減や電力の安定供給のため、さらにはカーボンニュートラルの実現に向け、早期再稼働を実現できるよう、引き続き、審査対応に総力をあげて取り組んでいきます。
- ✓2022年5月31日札幌地裁から、泊発電所の運転差止めを認める判決が出されました。当社は同年6月2日札幌高裁に控訴しており、裁判所のご理解を得られるよう説明してまいります。

今後の主要な審査項目と原子炉設置変更許可に向けた審査の流れ

- ▶津波等の審査対応を行い、基準津波の策定等を進めていく。
- ▶プラント施設については、基準地震動と今後策定する基準津波をもとに、その影響を評価していく。
- ▶これらの説明を2024年10月上旬までに実施することとしている。

	審査項目	主な説明事項	説明状況	
地震・津波等	地震	基準地震動の策定 ⇒基準地震動として19ケース設定、最大加速度693ガル	説明済	基準地震動・基準津波の策定
	津波	基準津波の策定	説明中	
	火山	火山活動の可能性評価 降下火砕物（火山灰）の層厚の評価	説明中	
プラント施設	耐震・耐津波設計方針	防潮堤の設計方針	説明済	プラント施設への地震・津波の影響を評価※1
		津波により防波堤が損傷した場合の影響評価、燃料等輸送船の漂流防止対策等	説明中	
	設計基準対象施設重大事故等対処施設	地震・津波の影響確認、最新の審査知見の反映等	説明中	

結果

※1 降下火砕物（火山灰）層厚の影響を含む

原子炉設置変更許可

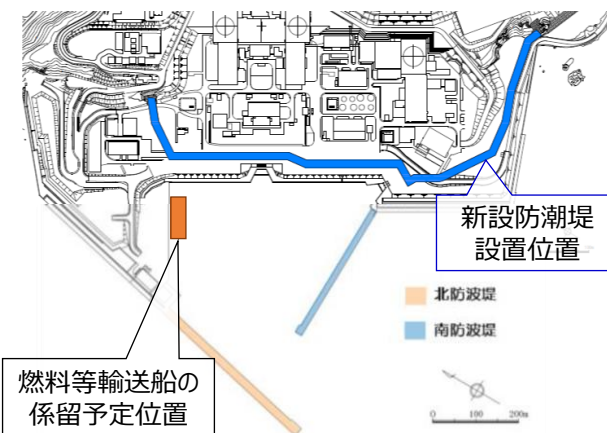
審査対応状況

プラント施設への地震・津波の影響評価

【防潮堤の設計方針】

- ▶安全性をより一層高める観点から、岩着支持構造（堅固な岩盤に支持させる形式）による防潮堤を設置することとしている。
- ▶当社は、2024年2月1日の審査会合で、防潮堤の設計方針（構造成立性評価結果等）について説明し基本構造を確定したことから、同年3月28日より新設防潮堤設置工事を開始する。

※新設防潮堤設置工事の概要は下記参照



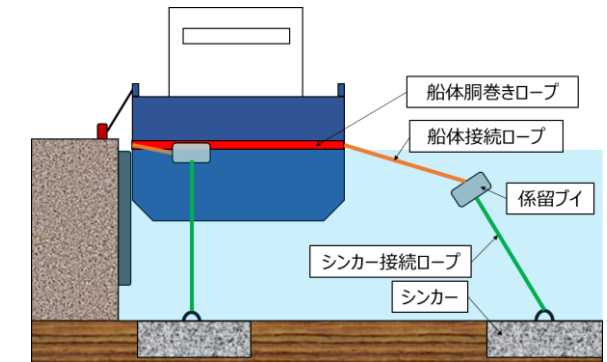
＜泊発電所防潮堤・防波堤配置図＞

【津波により防波堤が損傷した場合の影響評価】

- ▶津波により防波堤が損傷した場合の発電所設備への影響について、今後、防波堤の移動や沈下に関する解析や水理模型実験の結果を用いて審査会合などで説明していく。

【燃料等輸送船の漂流防止対策】

- ▶2024年2月1日の審査会合で、泊発電所の港湾内に停泊している燃料等の輸送船が、津波来襲時に漂流物となり防潮堤に衝突するなどの悪影響を回避するための方策として、船を海域からロープなどで固定する“係留”が最適な方策であると説明した。原子力規制委員会から、「ロープの破断等を想定した対策を説明すること」などのコメントをいただいた。
- ▶引き続き検討し、今後の審査会合などで説明していく。



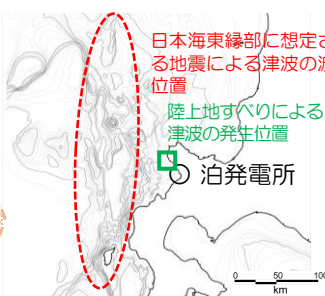
＜係留イメージ＞

審査対応状況

津波評価

【地震による津波と陸上地すべりによる津波の組合せの評価】

- ▶2023年10月20日の審査会合で、日本海東縁部に想定される地震による津波と陸上地すべりによる津波の組合せ評価結果のうち、想定される敷地前面の最大水位上昇量（津波高さ）が15.68mになることなどを説明した。
- ▶2023年12月8日の審査会合で、同じく津波の組合せのうち、水位下降側（引き波）の評価結果を説明した。



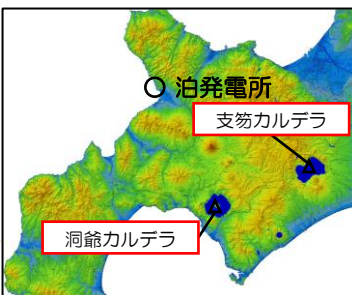
津波の①上昇側・②下降側に関する当社評価に対して、「概ね妥当な検討がなされている」との評価をいただいた。
(①2023年10月20日、②12月8日審査会合)

- ▶今後、津波の組合せ評価に関する審査会合の結果も踏まえ、基準津波の策定に向け審査会合などで説明していく。

火山影響評価

【火山活動の可能性評価、降下火砕物（火山灰）の層厚の評価】

- ▶火山影響評価ガイドの改正を踏まえた火山活動の可能性評価、実効性のある火山のモニタリング手法および降下火砕物（火山灰）の層厚評価について説明する。
- ▶2024年2月16日の審査会合で、巨大噴火の可能性評価に関して、支笏カルデラ及び洞爺カルデラについて運用期間中における巨大噴火の可能性は十分小さいとの評価結果を説明した。



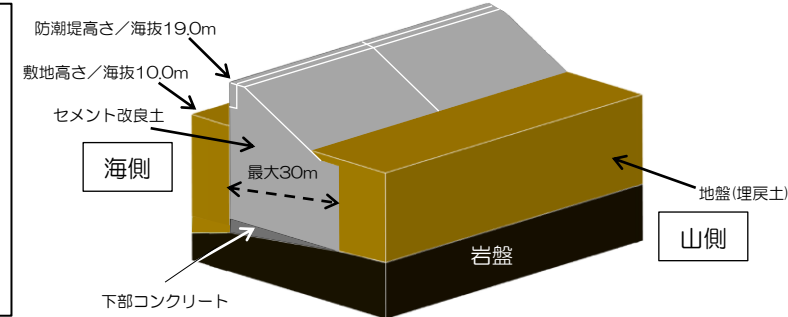
＜巨大噴火の可能性評価対象火山＞

巨大噴火の可能性評価に関する当社評価に対して、「概ね妥当な検討がなされている」との評価をいただいた。
(2024年2月16日審査会合)

- ▶今後、降下火砕物（火山灰）の層厚の評価などについて、審査会合などで説明していく。

新設防潮堤設置工事の概要

- 【工事の開始時期】2024年3月28日
- 【工事の完了時期】未定（3年程度での完成を目標とし、さらに少しでも早い完成を目指し取り組んでいく）
- 【構造】コンクリートおよびセメント改良土による岩着支持構造
- 【高さ】海拔19.0m
- 【延長】約1,200m
- 【幅】最大30m



【新設防潮堤設置までの津波への安全対策について】

旧防潮堤は、現在、概ね撤去が完了している。新規規制基準への適合には、津波が敷地に侵入しないよう防潮堤の設置が必要だが、新設防潮堤設置までの期間における津波への安全対策として、設置済みの建屋の水密扉で浸水を防ぐ。また、使用済燃料は津波の影響を受けない海拔31m以上に保管していることに加え、送水ポンプ車による冷却水の補給も可能とするなど多様な冷却手段を確保し、万全を期している。